



真道 黎明「飛天」

(しんどう れいめい)

1960年制作 1897~1978・宇土市出身。本名は重産(しげひこ)。

当初は、洋画を志し太平洋洋画研究所などで学んでいましたが、大正4年より日本美術院研究会員となり日本画に転向しました。堅山南風、横山大観、安田靉彦、小林古径らに指導を受け、翌年、院展初入選。以降、院展に出品を続け、晩年の昭和50年に院展内閣総理大臣賞を受賞しました。独自に中国、朝鮮に度々と外遊して東洋美術の造詣を深め、神秘的な風景画の画風を確立し、米国や欧州でも個展を開くなど国際的にも評価されています。



黛 敏郎「昭和天皇御製の調べ」

(まゆずみ としろう)

1929~1997・神奈川県出身

20世紀日本のクラシック音楽・現代音楽界を代表する音楽家の一人。1964年より終生にわたり、音楽番組「題名のない音楽会」司会者としても広く周知されました。昭和60年5月、昭和天皇をお迎えて、第36回全国植樹祭を阿蘇の森で催されました。その折に本校のマンドリンクラブが総曲「はなしのふ」を演奏する光栄に浴しました。その演奏に感激された陛下は後に御製を御下賜。御製はその後、黛敏郎氏のより美しい調べが添えられ、歌い継がれています。



「鐘」

平成23年暮れの中高新校舎への引っ越しの際、校長室の古い本棚の最下段の奥から見つけました。当時「鐘つきオハルさん」の愛称で生徒達に親しまれた、給仕の斉藤ハルさんという方がおられ、現在のチャイムが導入される以前の昭和30年代まで、日常の始業や終業などの合図に使われていた鐘です。

鐘の製作年や制作会社、本校に購入された年代は分かりませんが、鐘を吊るす金具をフランスから取り寄せて、中高2号館2Fロビーに取り付けました。

50余年の時を経て、本校の校舎やここに集う人々は変わりましたが、鳴り響く鐘の音は、当時この九品寺キャンパスで鳴り響いていた音と同じです。



明治のオルガン「ヤマハ国産リードオルガン」

平成5(1993)年から校史資料室で4台のオルガンを保管していました。平成8(1996)年、そのうちの2台が明治40(1907)年、41(1908)年頃に製造されたヤマハの国産リードオルガンであることがわかりました。

国産のリードオルガンは明治23(1890)年頃から製造が始まりました。しかし、古い楽器は関東大震災などで、ほとんど残っていません。このオルガンは昭和25(1950)年頃まで使っていたそうです。電気がなかった頃の名残で両端に明かり取りである燭台(しょくだい)がついています。九州の記念館などで公開中のオルガンでは最古のものです。

平成8年、九州のテレビ局が協力して、「We Love 九州」というテレビ番組(30分)を製作しました。

テレビ熊本(TKU)では「大合唱 よみがえったオルガンの音」というタイトルの番組を作りました。この中で、オルガンが紹介されました。この番組を見ておられた方々から相当の反響がありました。

また、平成8年10月に開催された県民文化祭のイベント「明治は語る展」にこのオルガンの出品依頼があり、会場に展示するとともに演奏が行われました。その後は資料室で大切に保管されていました。

平成23(2011)年10月8日、本校の「校舎への感謝とお別れ会」を開催するにあたり、記念事業としてオルガンの修復を行いました。ここに明治時代を彷彿とさせるオルガンが見事に蘇りました。

後
塞

明治21年の学園創立から130年を迎え、記念の一環としてこの特集号を発刊するに至った。学園の歴史は、明治、大正、昭和、平成と続き、今年では改元され新たな元号となる。現在の学園を見て、佐々友房、内藤儀十郎の両翁は如何に感じられるであろうか。時代の変化に応じ、「変えるべきものと変えざるべきものは何か」を自問自答し、この命題に解を見出さなければならない。明日の、いや永久に続く学園の将来に向けて・・・ (H.K)

○皆様のご意見・ご感想をお寄せください。 編集・発行/尚綱学園 編集スタッフ/黒瀬英夫、松野多恵子、増本紗希、西村奏美、木庭敦子、古澤千鶴、木村杏莉 〒862-8678 熊本市中央区九品寺2丁目6-78 TEL.096-364-0116 FAX.096-363-6520 メールアドレス koho@shokei-gakuen.ac.jp



尚綱大学 尚綱大学短期大学部
尚綱高等学校 尚綱中学校(中高一貫)
幼保連携型認定こども園
尚綱大学短期大学部附属こども園

